

7月30日午前中勤務の後出発、仙台土砂降り、笹谷トンネルを抜けたら雨が霧雨になっていました。振り返れば3月11日のあの忌まわしい東日本大震災に憔悴し、立ち直れない位の心のダメージと、それを救ってくれた塾長、奥様の暖かさ思いやり、全国の支部長始め塾生の力強さ、なんとどんなに頼もしかった事か救われたことか……

道中、今更ながらに思うと何も解らずに、愚痴を言うとその都度「いいか浪岡これからは面白いんだ」と「運命だ」の言葉についてきて30年本当に振り返れば面白かったし楽しい人生を送らせていただいている。平凡に会社人間でいたなら、つまらないクソ爺で人生を愚痴りながら、ちょっと政治家の悪口を言った位のつまらない毎日をただ過ごしていたのかもとすると、有り難さで一杯です。

「浪岡さん楽しかったよなあ〜」「いがったよなあ〜」「そんだべず〜」峰田山形支部長と会う度こんな会話になって行きます。先生の下でなければこんな人生は送れて居なかったとよく二人で話の最後を締めくくることが返りの挨拶です。

出会った頃に塾長の話していた強さの中に心のある健全な組織、本物の人づくり大道塾なればこそと、そうか、あのとき酔いながらもくり返し塾長の言っていた事はこのことだったのだとの思いを胸に何時もとは違った特別の思いで参加させていただきました。

それに付けても歳をとるとはなんといい事だをつくづく実感させられた合宿でもありました。

若かった頃は、一生懸命で一日一日の稽古が精一杯で、痛さと、辛さしか見えなかったような気が致しますが、こうして30年(実はそれ以上)塾長を囲み平塚評議委員長、古参の峰田支部長、菅原支部長、児玉支部長、露天風呂に浸かりながら、今は思うように体も言う事を効かなくなってい居る自分にも関わらず、会話がはずんでいき、いつしか若くて怖いもの等無い(?)と思っていた頃にタイムスリップし、先生に出会った頃(運命?)の5泊6日の合宿の辛さ、稽古の厳しさ、一緒に汗を流した面々、楽しかった事、苦しかった事を劇画の一卷から三十巻まで僅かな時間でイッキに1年目から30年間を見る事が出来ました。嗚呼、歳を取るって素晴らしい事だ歳を重ねた今だからこそ見る事ができるのだと大道塾に、一緒に夢を見させてくれた塾長、仲間に心から素直に感謝の一時でした。今回参加した若い生徒を、汗だくで真剣に拳を繰り出す少年を見ていると「貴方達もこの楽しいドラマを私達と同じ歳になれば見る事が出来るのですよ…いつかその日迄ガンバレ」とついつい目を細め笑みがこぼれたのは、私だけだったのでしょうか。

最後に峰田支部長の別荘より別れの際に見えなくなる私の姿にバンザイをしていただきました奥様、塾長の若さに感謝感激、ナミダしてナミオカ、寂しさを胸に帰路に付きました……。 押忍